

懐風館高校 令和3年度第2回学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和3年11月26日(金) 14:00~16:00
- 2 出席委員 5名
大関会長 森井委員 松村委員 阪本委員 黒川委員
- 3 内 容 (1) 14:00~14:40 授業及び校内施設見学
①「コミュニケーション英語Ⅱ」(2年生)
※一人一台端末機を用いた授業
②「サービスラーニング」(3年生)
※専門コースの特色ある授業

(2) 14:45~16:00 報告及び協議 (会議室)

4 報告及び協議記録

<事務局より報告>

▲令和3年度学校経営計画の進捗状況について(校長より)

- ・教育相談体制について、今年度は予防的観点から定例以外に心配な事案があれば適宜ケース会議等を開き、早期の生徒支援に努めている。
- ・入学者選抜における志願者数の確保が大きなミッション。まず校長が動くことから始め、夏休みと10月に延べ40校の中学校を訪問し広報活動を行った。地元羽曳野市においては市長と面会し、市内唯一の高等学校として市との連携を深めるとともに、中学校との交流等の支援をお願いした。また、2月20日(日)にあらたに学校説明会を追加した。
- ・地域の福祉活動・環境保全活動は、新型コロナウイルス感染症のため中止せざるを得ない状況。学校周辺の地域清掃は実施している。
- ・教職員研修は計画通り進んでいる。6月に「LGBT」、7月に「ICT活用能力向上」、10月に「ジェンダー・ハラスメント・人権」、12月に「法的立場から見た生徒指導」等の研修を実施。また、中高連携の取り組みの一つとして、本校の研修を中学校に案内し、中学校の教員にも参加していただいた。
- ・いじめの対応については、「感度を高く、少しの変化も見逃さない」姿勢で生徒を見守る体制により、現在のところ大きな問題は起こっていないが、今後もしっかりと見守りを継続していく。

▲今年度の学校の状況について（担当者）

<生徒指導部>

- ・遅刻者数は昨年度より増加傾向にあり、指導の強化が必要。
- ・生徒会関係の行事はコロナの影響により、延期や中止せざるを得ないものがあった。文化祭は中止となり、体育祭は6月実施予定を10月に延期して実施した。
- ・4月当初からの緊急事態宣言により部活動が中止になった影響があり、部活動参加率が例年より減少している。全体で約41%の参加率。

<保健部>

- ・SCの生徒及び保護者の相談件数は昨年度より増加している。生徒相談委員会からつなぐケースが多く、より丁寧な生徒支援の結果と分析している。
- ・心の悩みで保健室に来室する生徒については、担任、学年、生徒相談員会やSCと連携し、チームとして生徒を支援する体制を築くことを大切にしている。
- ・「薬物乱用防止講演会」、「性教育講演会」、「救命救急講演会」などを通じて、生徒が自らの心と体の健康に関わる知識を学ぶ取り組みを進めている。

<総務部>

- ・9月の学校説明会は、緊急事態宣言中のためWebでの実施とした。
- ・11月に実施した体験入学は、アンケート結果を見ると非常に好評であった。

<教務部>

- ・コロナの影響のためか、長欠気味の生徒が増加している。
- ・来年度から実施する観点別評価について、試行と改善を行いながら取り組んでいる。
- ・8月末に一人一台端末の配付が完了し、9月の臨時休校時には端末を通じたHR、健康観察、授業教材や課題配信等に活用した。各教科で授業における活用を進めている。
- ・人権教育は、1年生は1月にアニメ「めぐみ」を視聴、2年生は11月に沖縄平和に関する講話、3年生は1学期に就職差別等に関わる人権についての学習をそれぞれ実施。

<進路指導部>

- ・7月に1・2年生の大学見学バスツアー、12月に大学、専門学校、企業等を招いての「懐風館セミナー」の進路行事を実施または予定。
- ・3年生の大学、専門学校、就職のそれぞれの希望者の割合は昨年並み。
- ・9月に始まった就職試験において、就職希望者の1次試験合格率は昨年度より高く、他校に比べても高い。

<報告への質問・意見及び協議> □・・・学校運営協議会委員 ▲・・・事務局

□大学等見学バスツアーはどのような形で実施しているのか。

▲1・2年生がそれぞれ6つのグループに分かれて、希望する数校の大学の体験授業を受け

たり学校の説明を聴くなど、進路意識を高める指導を行っている。

- コロナの影響もあるが、大学や職場を実体験することは大切である。特に、専門学校についてはしっかり見るのが重要。夏休みの課題としてオープンキャンパスへの参加を課している高校もある。
- 教員の ICT 研修の効果は上がっているか。
- ▲担任の教員は、端末を通じた生徒とのやり取りがあるので研修後のスキルは上がっている。各教科での取り組みと成果は、今後の検証が必要。
- 全ての教員の ICT 活用能力が上がるのが理想だが、現実には年齢や興味・関心の度合いの差により習熟度にバラつきが出ていることが小中学校でも課題となっている。高校では教科の内容がより専門的なものとなるので、その部分の改善の取り組みが重要となるのでは。
- ▲本校は全講義教室に電子黒板が設置されている。この恵まれた ICT 環境を何より生徒の学びの支援に生かしていかなければならないが、教員用の端末機が不足している現状がある。
- 中学校では、ICTにより授業の振り返りの集計を行い、観点別評価につなげるなど、教員の ICT 活用意識を高めることに取り組んでいる。
- 今日の ICT を活用した授業を見て、授業形態の進化とともに保護者の年代の授業とのギャップを感じた。保護者にはスマホの知識だけではなく、授業で ICT がどのように使われているのかを知ってもらうことも大切だと思う。
- 懐風館高校には、全教室にプロジェクターが設置されている恵まれた学習環境がある。この利点を生かすためには、教員の ICT 活用能力のバラつきをなくすことも重要である。
- 南河内を中心とした地元出身の純粋な生徒が多いことが懐風館高校のよさだと思う。自然にも恵まれており、伸び伸びと学べる環境をアピールすることが大切。
- 進路指導で取り入れている大学や職場の見学、実習体験は生徒がキャリアデザインを描くうえで非常に大切。今後も取り組みを一層進めてもらいたい。